

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟

作業療法と理学療法の違いをご存知ですか？

理学療法は、「寝返る」「起き上がる」「立ち上がる」「歩く」などの、基本となる身体動作のリハビリテーションを行います。

作業療法は、日常生活をスムーズに送るための応用的動作のリハビリテーションを行います。応用動作とは、「食事をする」「顔を洗う」「トイレに行く」「着替える」「お風呂に入る」などの、生活をするうえで必要不可欠な動作の事を指します。

その他に当院では、自宅退院後に家事や買い物で困らないよう、患者様の自宅にて「料理」「洗濯」「買い物」「掃除」などの家事動作練習も行っています。

また、患者様が入院前に行っていた趣味活動もリハビリテーションの中に取り入れ、「お菓子作り」や「粘土細工」「パークゴルフ」などを行いながら、心身機能向上と社会復帰にも努めています。



私たちは、患者様とその家族の意志を尊重し、その人らしく生きる生活を行えるように支援しております。そのためには、まず患者様を知ること、患者様の生活を知ることが第一に心掛けています。



認知症治療病棟

病棟活動紹介

当院、認知症治療病棟にて行われている病棟活動の一部をご紹介します。

【調理活動】

毎週月・水曜日の昼食時に、患者様と一緒に汁物を作っています。毎週金曜日は、おやつ作りも行っています。患者様それぞれが能力に応じた役割をもつことで、自信の回復に繋がります。また、調理を通じて残存機能の維持と他の患者様とのコミュニケーションを取ることによる精神面の安定化を図っています。



【園芸活動】

土ならし、花苗・野菜苗の植え付け、除草、水やり、収穫まで年間計画を立て、一連の作業を患者様と一緒にを行います。

時期に応じた苗を選択することで、春夏秋冬の季節を感じ、収穫した野菜は調理活動に応用してみんなでいただきます。達成感を感じると同時に、農作業や園芸活動の回想にも繋げています。



家族会

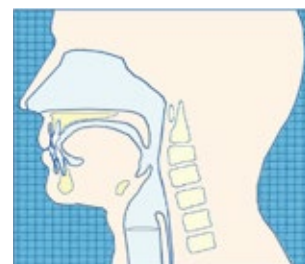
テーマ「食事についての不安を解消しよう！」

担当：言語聴覚士

2019年12月21日（土）、言語聴覚士が担当し家族会を開催しました。今回は**嚥下障害**について、画像や動画を用いた講義や嚥下食の試食をしていただきました。

ご家族のみならず、患者様自身も参加していただき、盛り上がりのある会となりました。内容を簡単にご紹介します。

嚥下障害とは、顔面・舌や喉の筋肉や感覚が脳卒中により麻痺する、加齢により低下するなど、上手く飲み込めない状態を言います。飲み込めず、気管に食べ物が入ると**ムセ**が起きますが、「ムセが弱い」「ムセがない」と**誤嚥**し、誤嚥性肺炎や窒息を起こす危険性があります。“水分”でムせてしまう方にはトロミをつけ、“食べ物”でムせてしまう方には硬さや大きさを調整します（写真参照）。家族会では、実際にトロミのお茶や当院のお食事を試食していただきました。



ペースト粥・ミキサー菜



全粥・やわらか菜



「食べる」ことは“栄養”だけでなく、“生きがい”や“楽しみ”を満たす事でもあると考えリハビリをしております。お困りの際には、言語聴覚士までお気軽にお尋ねください。



合同研究大会

医療法人社団和風会 第8回 合同研究大会

会期：2020年2月5日（水） 会場：箕面市立多文化交流センター

合同研究大会とは、2011年より病院間の交流や学会発表の喚起、プレゼンテーションの質の向上を図る目的で、前年度に学会発表した中の優れた演題を複数題選び、あらためて学会形式で発表する大会です。

当初は同一法人の橋本病院と千里リハビリテーション病院で行っていましたが、第3回から富家病院グループ（埼玉県・千葉県）と光風園病院（山口県）、今回から多摩平の森の病院（東京都）が加わり、合計6つの医療機関からスタッフを含め約80名参加しました。

当院からは3演題エントリーし、理学療法士 尾山直樹さんの発表「被殻出血により皮質橋網様体路を損傷し、非麻痺側の予測的姿勢制御障害をきたした症例 ～シングルケースを通じての一考察～」が優秀賞（1位）となり、報償として海外研修への参加（無料）を獲得しました。当院からの優秀賞は今回で2人目です。



～ 受賞した尾山直樹さんよりコメント～

理学療法士だけでなく他職種も参加される大会なので分かりやすさを意識し、その中で医学的な根拠を示しつつ話を展開できた事が良かったと思っています。正直狙っていたのでとても嬉しかったです。海外研修でも様々な医療現場を見学させていただき、知見を深めていきたいです。ご協力いただいた方々ありがとうございました。

通所リハビリテーションセンターはしもと

運動習慣で元気に過ごす

日ごとに暖かさを感じられるようになり、外に出て運動できる丁度良い季節になりました。日々運動を習慣的に行うのは難しいものですが、「**運動習慣が身につくことで日常生活能力を保つことができる**」とされています。

- 日常的に身体活動が高い方は日常生活の自立能力が落ちにくい。
- 1日の平均歩数と歩行バランスなどの歩行能力が関連する。
- 習慣的に散歩を行うことが基本的日常生活動作障害の予防に役立つ。



散歩コース

当センターでは、昨年からの運動習慣に着目し、利用者様の運動習慣を促す為に屋外散歩活動を開始しました。

- ① 比較的安全で舗装された道を散歩コースに設定する。
- ② 利用者様の能力に合わせたコースを提示する。
- ③ 自分の好きなコースが歩ける。(6コース)
- ④ 出発・到着時間を記録、実施回数を集計する。

現在では、屋外散歩を習慣として行っている方も徐々に増え、時には利用者様同士で誘い合い、散歩に出かけることもあります。今後、まだまだ散歩習慣が必要な方もおられるため、多くの方が意欲を持って参加していただけるように工夫していきます。



薬剤部

🍷 ~ お薬が飲みにくいとき ~ 🍷

お薬が飲みにくいからといって、錠剤を割ったり、砕いたり、カプセルの中身を出したりするのはお勧めできません。お薬の効き目が変わってしまったり、副作用が出やすくなってしまいう可能性があるからです。お薬が飲みにくいときの対処法として、①処方薬を調整してもらう ②服薬補助剤を使う が挙げられます。

①処方薬を調整してもらう

お薬の中には、水に溶けやすい錠剤や大きさの違う製品、同じ成分でもシロップや粉薬が発売されているものがあります。お薬について知りたいことがあれば、医師・薬剤師が相談にのることができます。

②服薬補助剤を使う

代表的な服薬補助剤としてオブラートがあります。フィルム状のものには様々な形がありますので、自力で包むのが難しい場合には、袋型やカップ型など簡単に包めるタイプを選ぶと良いです。

また近年では、ゼリー状のオブラートも発売されています。錠剤やカプセルを包むようにゼリーをかぶせたり、粉薬と混ぜたりして服用することができます。様々な味のもので発売されているので、好みに合わせて選ぶことができます。また、低カロリーのものやノンシュガーのものなど、疾患に配慮した製品も多く発売されているので、自分に合った製品を検討するのが良いと思います。



治療のためのお薬ですので、簡単に安全に服用できるよう、気になる方は医師・薬剤師に是非一度ご相談ください。

香川県理学療法士学会

第25回香川県理学療法士学会 会期：2020年2月23日（日） 会場：観音寺ハイスタッフホール

「足底感覚障害に対してインソールの使用が効果的であった一症例」小西龍弥

「頸椎症性脊髄損症により四肢不全麻痺を呈した症例への治療線戦略」朝國卓也

「高次脳機能障害を併発したPushing症例に対する起立戦略」北林慎也

「パーキンソン病患者に対し太鼓の達人を用いた視覚刺激が歩行に有効であった症例」久枝穂乃香

「Branch Atheromatous Disease（BAD）後、歩行獲得を目指した症例

～脳損傷による両側股関節の機能低下異に着目して～」高村菜摘

「既往にTKA,BHPを持った右大腿骨骨幹部骨折術後患者の自宅復帰に向けた介入」三好理穂

「頸髄損傷患者に運動療法を実施しうつ症状、運動機能の改善が図れた症例」後根圭佑

「Contraversive pushingを呈した脳血管疾患患者における起立動作阻害因子の検討」三好隆也

「GS-Kneeを用いた歩行練習が歩行速度の改善に繋がった一症例」

矢野加奈

「地域高齢者の体力測定における実態調査」東條果凜

今回の学会では、他の病院の発表も聞くことができ、すごく勉強になりました。また自分も発表する事により、自己研鑽となるいい機会となりました。

今回の経験を今後の臨床の現場に繋がりたいと思います。



慢性期リハビリテーション学会

第7回慢性期リハビリテーション学会 会期：2020年2月27日（木）～28日（金）
会場：岡山コンベンションセンター、岡山県医師会館

「尊厳の保障 ～誰もが誇りを持って暮らせるまちづくり」として開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されている状況を鑑み、学会の現地会場での開催は中止となり、メイン会場でのプログラムのみ会期日にWeb媒体にて放映されました。一般演題発表は誌上発表として現地会場での発表は中止となりました。

「口から食べるを支える」香川美江子（看護師）

「1/3食 離脱のタイミングについて考える」宮本明友（看護師）

「回復期リハビリテーション病棟で取り組む排便コントロール～1日1回、日中の排便を目指して～」

大西恵美（看護師）

「当院回復期リハビリテーション病棟のアウトカム評価の課題」大西徹也（理学療法士）

「回復期への早期転院は、早期退院につながるのか？」井上和之（理学療法士）

「簡便な栄養評価にみる身体機能との関連性－通所リハ利用者の同行から－」西山弘晃（理学療法士）

「訪問リハ利用者の生活範囲にリハ内容は影響するか？当事業所におけるHb-LSAを用いた後方視的研究」

中村健士郎（理学療法士）

「脳損傷者の自動車運転実車評価到達の有無に関わる因子の検討」宮川友輔（作業療法士）

「補綴装置（PAP）の装用が摂食嚥下機能の改善に有効であった症例」木下三寿希（言語聴覚士）

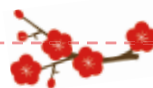


香川県作業療法学会

第21回香川県作業療法学会 会期：2020年1月19日（日） 会場：綾歌総合文化会館アイレックス

「脳梗塞発症後に肩手症候群を呈し治療に難渋した一症例」篠原雅樹

今回の学会発表を終え、他病院の方々の意見を聞くこと、また他の症例・研究発表を聞くことで様々な知識・技術の吸収ができました。今後作業療法士として今回学んだことを臨床に活かしていきたいと思えます。



全国抑制廃止研究会

第21回全国抑制廃止研究会 大阪大会 –抑制ZEROへ・ネクストステージ–

会期：2019年12月21日（土）～22日（日）

会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）

当院理事長 橋本康子が大会長、同法人千里リハビリテーション病院が主事務局となり開催されました。当院から、座長・ワークショップファシリテーター・ボランティアスタッフとして27名参加しました。

今大会の内容は、講演だけでなくワークショップ、シンポジウム、劇団による市民講座など盛りだくさんで、約500名の参加者がいらっしゃいました。

「抑制ZERO」とは、患者様の自由、つまり尊厳を守ることであり、そのうえで安心安全な医療を提供することだと学びました。医療という特殊な環境のなかで、私たちの目からは危険と見える患者様の行動について、何をみて何を思い、どのように感じて動かれているのか、また訴えているのかを推測し、傾聴し、理解し、対応する「気づきの心」が重要であると感じました。当院では「抑制ZERO」へ2000年から取り組み、それは一朝一夕には成し得ない難しい事ではありますが、患者様の尊厳を守る素晴らしい取り組みです。改めて実践できている当院を誇らしく思いました。



外国人技能実習生

外国人技能実習生の実習が始まりました！

2019年12月17日、外国人技能実習生2名が日本にやってきました。岡山の研修センターで1ヶ月の研修を経て、2020年1月22日より当院で介護職として勤務をしています。（インドネシアでは看護師免許を取得しています）

初めての日本の生活と実習が始まったばかりであり、日本語の勉強も含め一生懸命に頑張っています。礼儀正しく素直であり、患者様に優しく笑顔で関わることができています。より良い介護技術や技能・知識が学べるよう実習生と共に頑張っていきたいと思えます。

初めての日本に、喜びと緊張があったそうです。インドネシアでは冬季がありませんので、寒さを感じることも初めてで、入国時の第一声が「寒いです」と言われていました。



はじめまして。
一生懸命に頑張ります。
どうぞよろしくお願い致します。

地域連携室

平成25年12月1日から行っている**事前訪問**（当院転院前に患者様が入院されている病院へ直接訪問し、心身状態の把握や入院についての説明等を実施）の令和1年11月～令和2年2月の回復期リハ病棟の実績を紹介します。

- 1ヶ月の訪問件数：11月【33件】、12月【35件】、1月【40件】、2月【40件】
- 入院されている病院から紹介状が届いて訪問するまでの平均日数：11月～12月【5日】、1月～2月【5日】
- 紹介状が届いて当院へ転院されるまでの平均日数：11月～12月【11日】、1月～2月【12日】

※事前訪問後、当院へ転院されるまでの平均日数は7日です。**大変お待たせして申し訳ございません。**

対象となる方

1. 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態から2ヶ月以内。高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸随損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の発症から2ヶ月以内。
2. 多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折もしくは手術後から2ヶ月以内。
3. 外科的手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後から2ヶ月以内。
4. 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は関節の神経、筋又は靭帯損傷後の1ヶ月以内。
5. 股関節又は膝関節の置換術後の状態の1ヶ月以内。



移動も安心のサービス

転院の際の無料送迎をしております。ご希望の方はお気軽にお申し出ください。

リハビリは 365日、1日3時間



提供させていただきます。
また、多職種によるチーム医療で、早期に退院できるように取り組んでいます。

入院相談はお気軽にご連絡ください

橋本病院 地域連携部

窓口：大西 宏美

電話：0875-63-3552（直通）

0875-63-3311（代表）

認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。お気軽にご連絡ください。



事務部

2020(令和2)年4月1日より窓口でお支払いいただく金額が変わることがございます。

2020年度診療報酬改定に伴い、窓口でお支払い頂く金額が今までと変わることがございます。また請求内容の確認のため、当面的間、普段よりもお会計までに時間がかかる場合がございます。ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

～診療報酬とは～

診療報酬とは、医療機関が実施した診療に対する対価として受け取る報酬で、全国一律に適用される報酬として国が定めています。患者様が受ける診察や検査などの医療行為は診療報酬で細かく値段が決められており、それぞれの医療行為ごとに支払われる料金の合計と医薬品代を合わせた合計額が医療費となります。

患者様はそのうちの3割(※1)を医療機関の窓口で支払い、残りの7割は保険者（患者様が加入している国民健康保険・全国健康保険協会・健康保険組合など）から支払われています。

診療報酬は、時代によって変動する社会や経済状況に応じるため、2年ごとに改定されています。

(※1 小学生未満・70～75歳は負担2割、
75歳以上（一般的な所得者）は1割)

国民健康保険被保険者証・高齢受給者証の提示をお願い致します。

「国民健康保険被保険者証」「国民健康保険高齢受給者証」の有効期限が、**2020(令和2)年3月31日**となっております。

新しい保険証がお手元に届きましたら受診される際に、受付窓口まで提示をお願い致します。

保険証のご提示を
お願い致します



香川丸亀国際ハーフマラソン

第74回香川丸亀国際ハーフマラソン 開催日:2020年2月2日(日)

絶好のマラソン日和の中、約1万人のランナーが参加しました。今大会で小椋裕介選手が1時間0分0秒の日本記録をマークしたのは皆様もご存知かと思えます。当院からは9年連続で参加している理学療法士1名で、昨年より4分タイムを短縮したとのこと。例年では4月にまんのう公園で行われるリレーマラソンにチームで参加していましたが、残念ながら今年はコロナウイルスの影響で中止になりました。次回は10月の「いくしま」で開催のリレーマラソンです。

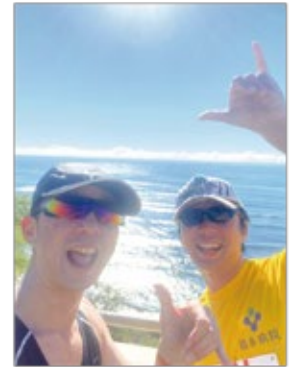


ホノルルマラソン

2019年12月8日(日)5:00スタート

当院から理学療法士2名、作業療法士1名の3名と同一法人の千里リハビリテーション病院の医師1名の合計4名でフルマラソンに参加しました。参加者は約30,000人でフルマラソンは約24,000人(内日本人約11,000人)だったようです。

晴天に恵まれ、暑すぎもせずで絶好のコンディションでした。当院から参加した3名はフルマラソンが初めてでしたが、ロケーションがとにかく素晴らしく、また沿道の応援のテンションが高く、とてもEnjoyすることができました。



ボランティアの人たちのおもてなしが多く、飲み物はもちろん、フルーツやそうめん、ビール等をいただきました。ホノルルマラソンは時間制限がないため歩くこと前提の方も多く見られました。マラソン後、もらったメダルとシェルレイ(首飾り)をかけて歩いていると、「Congratulations(おめでとう)」と知らない人たちに声をかけられ、まるでヒーローになった気分でした。楽しい思い出と半端ない筋肉痛が残りました。

職員募集のお知らせ

募集

准看護師
介護福祉士・介護職
※ 常勤で働ける方



まずは、病院見学にお越し下さい！
給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。
<http://www.wafukai-hashimoto.jp>
TEL 0875-63-3311 (人事担当: 安藤)

医療法人社団和風会 橋本病院
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西902番地1
TEL: 0875-63-3311
FAX: 0875-63-2651
入院相談直通電話: 0875-63-3552
E-mail: wafukai@gaea.ocn.ne.jp
HP: <http://www.wafukai-hashimoto.jp>
発行元: 橋本病院 広報委員会

医療 回復期リハビリテーション病棟 89床
認知症治療病棟 67床

介護 橋本病院指定居宅介護支援事業所
通所リハビリテーションセンターはしもと
訪問リハビリテーションセンターはしもと

